

# 観光振興ビジョンー概要ー



ダイヤモンド富士

「観光立町みのぶ」は町民が主役  
行動は オール身延で

## 基本構想

今後、身延が目指す観光の方向性を示し、実現に向けて目標を定め、その実現に向けてビジョンを示すものである。期間は、平成 28 年度（2016 年）から 5 年とし、「身延観光の基本構想」とする。

## 基本計画

この構想を実現するための基本設計図として、各分野で実行されるべき取り組みを明確化し、基本計画とする。

## 身延観光の現状と課題

人口減。若者がいない。観光で人を呼び込もうにも先を見据えた手が打てない・・・。

- (1)観光客、宿泊客の減少
- (2)事業者の高齢化、後継問題
- (3)地域（観光）資源の有効活用
- (4)観光ニーズ、消費ニーズの変化
- (5)身延町の知名度、消費者の認知
- (6)生かされないハード、機能しないシステム
- (7)目の前のビジネスチャンス

## 身延観光ブランド・イメージの確立

### 身延観光の「テーマ」

主役は町民。

住む人に良い町は、訪れても良い町。

「身延の観光」の基礎は、身延観光のブランド・イメージの確立にある。身延が目指す「身延観光」の目標を明確にし、それを「オール身延」で共有する。その共通の価値観、共通の認識が観光客を呼ぶ導線であり、身延と消費者をつなぐ糸となる。

### 身延観光の「イメージ」

身延を最も印象付ける言葉とは、町名「身延」という文字。

「身」は「身体」を想起させ「命」につながり、そこに「延」という文字が続けば、「身体を延ばす」「延命(いのちを延ばす)」という連想は容易にできる。

そのためには、今、町内に住む人たちが、常に元気にあふれ、のびのびと過ごしている姿を見せられる町づくりが行われているかが大きなポイントとなる。

「オール身延」でイメージを作り上げ周知することが重要である。

## これからの身延観光〈基本構想〉

### 今後の身延観光にとって重要な取り組み

- 1 身延の観光を推進する「推進母体」の確立（組織の確立）
- 2 長期滞在観光支援の身延観光コンシェルジュ設置（拠点の整備）
- 3 地域情報の一元化、地域連携のしくみづくり（ネットワーク整備）
- 4 地域観光を促進する地域コーディネーターの養成（人材育成）
- 5 身延独自の観光資源づくり（商品開発）
- 6 身延観光ブランドの確立（地域の共通認識、消費者の認知度アップ・販路確保）
- 7 身延ニューツーリズムの確立（ルール・ガイドンスづくりなど）
- 8 身延インバウンド・プログラムの確立（受入体制、ガイドの養成など）
- 9 「持続可能な身延観光」の実現(儲かる観光の実現)



身延山 観桜期



初詣

## アクションプラン〈行動計画〉に向けて

### 「住む人の誇れるまちが旅行者の訪れたいまち」

意識醸成は、住民自らが誇りを持てる「住みやすくなってよかったと思える町」をすることに結びつき、この結果として人々が訪れる町になる。

観光施策は、観光客誘致も目的とする中で、町づくりを進めた結果、結果的に“観光地”となる仕掛けを作り上げることに心掛けたい。

- ①行政や民間など関係者の一丸となった取り組み
- ②産業間の連携による他の地域にない「一安・近・短一」の観光地づくり
- ③「癒し」や「体験」など新しい視点からの「着地型」観光資源の発掘と活用
- ④年間を通じて楽しめる観光資源の開発
- ⑤旅行者のニーズを見極め、心の充足に向けた誘客対策
- ⑥市場ターゲットを見定めた誘客対策
- ⑦身延（峡南）ブランドや身延町の周知度の向上
- ⑧適切な広報宣伝活動
- ⑨進むIT社会への対応
- ⑩外国人観光客の誘致
- ⑪旅行者にやさしい社会基盤の整備
- ⑫自然及び景観の保全
- ⑬「おもてなし」の向上



本栖湖アクティビティ



もーん父さん



湯之奥金山博物館



なかとみ和紙の里

## 持続可能な身延観光へ向けて

儲かる観光の実現のためには・・・

持続可能な観光を実現するには — 自立的観光 —

持続可能なためには、観光客が来るからといって、地域資源を疲弊枯渇させるような一方的な地域資源消費型の観光ではなく、地域の自然環境などの保全に責任を持つ観光のあり方を確立することが必要であり、観光客の利便性や経済性のみを追求する観光や、自然環境保護や景観を無視した開発整備型の観光整備事業については、十分検討配慮される必要がある。

単に、道路を整備すれば、利便性が増して観光客が来るといふ、大型バス観光から、個人が、世界遺産にある「白神山地」や「屋久島」「知床」などのニューツーリズムに求めるのは、むしろ、不便でも、一つの世界観として完成された、或いは、それを目指す地域の人、その地域の一体感そのものこそを希求していることを忘れてはいけない。私たちが、何を提供し、何を伝えていきたいのかというミッションを失うことなく、これに突き進んでいければ、身延は、ニューツーリズムやインバウンドの中で、確固たる地位を築いていくことができるだろう。

- ① 観光は、地域活性化のけん引役
- ② 観光は、まちづくり・ひとづくり
- ③ 観光は、個性ある地域資源の活用策

これらを踏まえて、「オール身延」で行動！



八王子駅キャンペーン